



ガハテ村通信

篠山ナマステ会 兵庫県篠山市住山420 TEL (079) 595-1365 振替口座 00930-6-29629

ネパールに生きる



ある女性兵士の生と死

(八木澤高明氏著書より)

両親の愛情に恵まれない少女時代を過ごしたノビナは、一五歳の時に『畑仕事は苦手だから』と行ってマオイストに身を投じることを決意した。

一八歳で結婚。結婚式の翌日、ノビナは村を去り、それっきり帰ってこなかった。「戦争が続いているから、もう会えないかもしれない。生きていたらまた会いましょう。私が死んでしまったら、時々思い出してくださいね。」ノビナは泣きながらそう言っ、村を出て行った。これから新婚生活が始まる新婦の口からそんな言葉が出るとは、兵士とは言え余りにも悲しい。ネパールでは彼女のような若者たちが、銃を持って戦い続けている。どこまで血を見れば、この国の混乱は収まるのか。(著書引用承認済)

第四回ネパール市民講座でお願いしたフリーカメラマンの八木澤高明氏の講演は、ネパールの国が抱えている社会構造の混乱を生々しい感覚で伝えて、多くの感銘を受けました。お寄せいただいた参加者のご感想を四面で紹介させていただきました。

ある無名詩人の詩

岩村昇 訳

民衆のところへ行き

彼らの中で暮らし

彼らから学び

彼らを愛し

彼らが知っているもの

から出発し

彼らが持っているもの

の上に建てよ

しかし最高の指導者なら

自らの任務を完了し

自らの仕事が終わったとき

民衆たちに気づかせる

「わしらが自分でやり

遂げたんじゃない」と

訃報

篠山ナマステ会幹事 武部宣男さんが去る二月六日、ヒマラヤの天空に旅立たれました。通信員を通じてセティディビ小学校に連絡したところ、学校では「武部さんのご逝去を哀しんで、二月二七日臨時休校にして追悼しました。」と校長先生からのメールが届きました。



2004年3月に学校を訪問しガハテ村の人たちと肩を組んで

惜別の思い

代表幹事 杉原一三

武部宣男さんは豪放磊落、ナマステ会活動には欠くことのできない貴重な仲間でした。余命三カ月と宣告を受けておられたようですが、持ち前の性格と強い精神力で一年数カ月の闘病生活を頑張つて来られ、昨年四月には、奥様同伴でカトマンドゥでのセティディビ小学校運営委員との連絡会議にも参加されました。

滞在予備日には奥様への思いやりとしてエベレスト遊覧飛行をされましたが、これが武部さんの最後のネパール旅行となりました。今頃武部さんはネパールの空で、故渡辺省悟さんと一緒に私たちのツアーを心待ちにしておられるのでしょうか。謹んでご冥福をお祈りいたします。

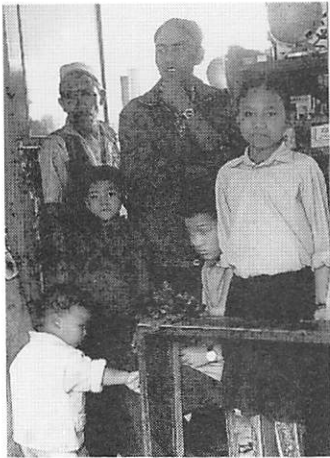
六年間の歩みを振り返り

交流のあり方を探る

篠山ナマステ会は、二〇〇〇年五月、故渡辺省悟さんを中心に、「ネパールの村に学校を」と呼びかけて、多くの市民や団体の皆さんから心温まる浄財を寄せていただき、ガハテ村セティディビ小学校の建設運営の支援をスタートしてから六年が経過しました。その間学校支援に送金した金額は、総額で、五六八万三千円となっています。

お蔭様で今、学校は立派に完成し、一五二名の子どもたちが元気に通学しており、卒業生一六名が中学に進学しています。そして篠山市内の小学校との間に手紙や図画による交流が続けられております。当初の契約であった五年間の支援期限が過ぎましたが、ご案内の通り、ネパールは今、大変な混乱状態にあって、治安の悪化から相互理解と交流のためのスタディツアーも組めない状態になっています。

しかし、年間一回は役員がカトマンドゥまで出かけて、現地カウンターパート「SSS」や、学校運営委員会との連絡調整の会議を行っています。更に、カトマンドゥに連絡事務所を設置して通信員を置き、情報の交換を行っています。



通信員ビシュユマニ・ネパール氏からの最近(四月五日)の報告によりますと、六年前に篠山ナマステ

会の支援によって、新しい学校が建設され、教職員を雇い、制服も出来て子どもたちが通い始めると、村人の考えは日に日に変わっていききました。

学校が出来る前両親は、教育は何ももたらさないと考えており、また娘のための教育は必要ないとも思っており、女の子に教育を受けさせることは意味のない遊びだ、としていましたが、通学する子どもたちを通して、教育、健康、その他の様々な知識を知りました。現在、男子よりも多くの女子が学校に通っております。

との報告が届いておりますから、現地の様子が全くわからない状態ではありませんが、やはり、ガハテ村の人たちとの直接の交流によって、五一%をガハテ村とその子どもたちのために、四九%を我々の自分探しと篠山の子どものためにという視点が見えにくくなっています。

ネパールの国は今、政情不安のために学校整備の予算どころではなくなり、最初の計画であった五年間経過すれば政府の公立学校として教師の配置が認められるので、それまでナマステ会で支援するという予定が狂って、現在正規の教員は校長先生一人という状態で、約束だからという事で先生の給与と支援を打ち切ることが出来るのか、今後の支援に大きな課題となっています。

更に、ユネスコ資金で設置されたトイレも水道が整備されないと使用出来ない状態であり、学校図書室の整備、奨学金制度の是非など、課題が山積していますが、金や物のみによる支援は、結果的には村民の自立心を失わせ、限界が見えています。どのようになればガハテ村の人たちが経済的な力をつけて、自立した学校運営が出来るようになるのか、今後の篠山ナマステ会活動にとって、大きな節目を迎えています。

ご協力
ありがとうございました

平成17年度の活動を振り返る

主な活動

- 4月4日 「ガハテ村通信」発行
- 15日 セ小運営連絡会議（於カトマンドゥ）
篠山ナマステ会4名
SSS・セ小12名参加
- 18日 JICA（国際協力機構）訪問
在ネ日本大使館表敬訪問
- 5月21日 平成17年度総会
記念講演「私の見たネパール」
藤本抄越理氏
- 6月1日 PHD指導者研修会参加（於西脇市）
- 17日 SSSへ送金 741,000円
（学校運営費・通信員・事務所費）
- 7月7日 愛知万博ネパールナショナルデー
幹事8名参加
- 8月27日 「愛の縁日」出店
- 9月22日 「今田人生セミナー」参加
- 10月1日 「4N西日本セミナー」参加
- 4日 篠山中学校総合学習参加
- 8日 「篠山市教育フェスティバル」参加
- 11月1日 市内4小学校へセ小との手紙による交
流の依頼
- 20日 国際理解フォーラム in 篠山参加
- 24日 第2回ネパール市民講座
- (~29日) セ小写真展開催
- 26日 VTR上映会（於篠山市民センター）
- 27日 PHD運動の父 岩村昇博士逝去
- 12月7日 人権フェスタ参加
- 平成18年
- 1月11日 第3回ネパール市民講座・写真展
- 15日 VTR上映会（於中央図書館）
- 31日 ガハテ村通信第9号発行
- 2月6日 幹事 武部宣男氏逝去
- 11日 第4回ネパール市民講座
講演会 八木澤高明氏

決算のあらまし

一般会計（会費で賄う活動費用）	
収入金額	729,783円 会費@5,000×87人 その他
支出金額	660,952円 活動・事務費等
差引残高	68,831円 繰越金

募金会計（ネパールへの支援金）	
収入金額	1,872,930円 前年度繰越金 個人・ 団体からの寄付金 募金箱・バザー収益金等
支出金額	715,371円 ネパールへの送金・手 数料等
差引残高	1,157,559円 繰越金

渡辺基金特別会計	
繰越残高	1,000,006円



第3回ネパール市民講座

VTR「戦火にさらされる学校」を見て

難しい。どうしたら解決するのかわからない。マオイストが一方向的に悪いとは思えない。長い歴史の中で積もったオリがあるのだから。ただ、子どもたちが紛争に巻き込まれていることが悲劇だということは言える。

農村の教師の言葉が印象に残った。「教育は人間どうしの心のふれあい。教師が不安な状態で、どうやって子どもたちを守れるのか。」マオイストたちも、教育の重要性をわかっているからこそ、子どもたちを取り込もうとしているのだろう。「国のために戦わなければならないと信じている。」と、マオイストに加わった9歳の少年。僅か9歳の少年が、本当に自分でそう考えたのだろうか。

ネパールの紛争は、現在も収まる兆しが見えないと聞いた。無力な私にはどうすることも出来ないが、ナマステ会の活動を通じ、出来ることがあれば協力したい。 丹波市氷上町 徳舛 純

ご寄付 有難うございました

武部順子 様 134,000円

亡夫宣男氏の供養としてご寄付いただきました。

前回報告以降募金をいただいた方
久馬肇子 様 田端育代 様
土曜会 様

第4回ネパール市民講座

八木澤高明氏の講演会より

参加された方々からお寄せいただいた感想をまとめました。

◎ 田中秀夫さん

「マオイスト」に入ると、村に居るより楽しいし、給料ももらえるからなんや」と、平静をよそおいながらも、胸のうちは火の玉かもわかりません。

「和平」を願いながら、戦死した若い女性兵士の冥福を祈って線香をあげました。

八木澤さん、お体に気をつけて奥さま共々のご精進を祈っています。

◎ 片山あゆ美さん

私はネパールという国で、どんな問題があるのかをこの講座に参加するまで、余り知りませんでした。

でも、八木澤さんの話を聞いていると、少しだけわかったような気がします。カースト制に関係なく、女性の地位は低く、平均寿命は女性のほうが短いということも新たに知ることが出来ました。内戦で亡くなった人の数は1万3千人以上ということも聞きました。もっと詳しく知りたいと思い、今、私は八木澤さんの著作「ネパールに生きる」という本を読ませてもらっています。

ネパールという国の現状を知り、いかに日本が豊かで恵まれている国かということと、平和の大切さを改めて考えさせられました。

八木澤さん貴重なお話を有難うございました。ナマステ会の皆様、これからも宜しくお願いします。

◎ 藤木千皓さん

「ネパールに生きる」の講演会に参加させて頂き、八木澤先生の体験からにじみ出る生きたお話に、自ら現地民の立場になり、同じ目線に立って実情を見つめながら歩み続けられた先生、言葉は通じなくとも、自分達の事を考えてくれる人に出会って、心を開かれる人々との温かいふれあいが伺われ、感動しつつ、日本の安全社会の中で物の豊かさに慣れ過ぎず私たち。

同じ人間ながら、厳しい生活の中でお互い支え合いながら必死に生きる人々の現状を聞き、現地に行かずとも今、私たちに出来ることがあるのでは、いえ、皆と力を合わせれば、僅かでも役立つことがと、真剣に考えさせられる貴重な講演でした。

◎ 浅井 歩さん

ネパールと言えばヒマラヤ。世界の屋根を仰ぎながら、人々が慎ましく平和に暮らしている国だと思っていました。ところが、最近の「篠山ナマステ会」の報告で、マオイストという反政府武装組織の出現や、国王一家殺害事件などで政情不安となり、治安が著しく悪化していることを知りました。

更に今回の八木澤高明さんの講演で、現在の混迷が複雑で不平等な社会構造に起因していることがよくわかりました。都市と農村、富裕と貧困、教育と児童労働、男と女、そして伝統的なカースト制度。煩悶の人生を宿命として甘受せざるを得ない人々がいる中で、この世を変えたいと銃を取る若者たち(女性兵士も)。

この差別の重層構造から解放されるには、武力しかないのでしょうか。いかに崇高な理想を掲げようと恐怖によって人を支配するのに夢中になっていると、まだ望みも果さないうちに、死神が征服しにやってくるでしょう。



◎ 前川公夫さん

八木澤氏のお話で今のネパールの状況が少しわかった気がしています。特に2001年の王室事件以降の、国軍と政府、そしてマオイストの関係について。そのマオイストがなぜその勢力を伸ばせたのかについて。

お話の中で心に残った2つの言葉があります。ひとつは「地方の貧しい子どもたちは皿洗いにカトマンズやポカラに行くか、銃を担いでマオイストになるかの選択しかない。」というもの、児童労働については、当日会場でサイン入りで買わせていただいた八木澤氏の著書に次のような一節がありました。「カーペット工場の児童労働が問題になり、国際的な批判にさらされると、多くのカーペット工場が閉鎖され、子どもたちが路頭に迷うことになった。」ネパールの置かれた重い現実言葉ありません。

お話の中で、心に残ったもうひとつの言葉は、「ネパールの最大の援助国である日本の援助はカトマンズ中心で、地方には届いていないのではないかと、その援助も援助という形で自分たちが儲けているだけなのではないか。」というものです。ネパールの現実をしっかりと見た、金と物だけではなく援助で少しでもネパールの状況が好転することを願っています。